九大百冊
~ Classic Books Library Café ~

『阿Qの世界』

昔々の中国に、〈阿Q〉と呼ばれる日雇い農民の男がいた

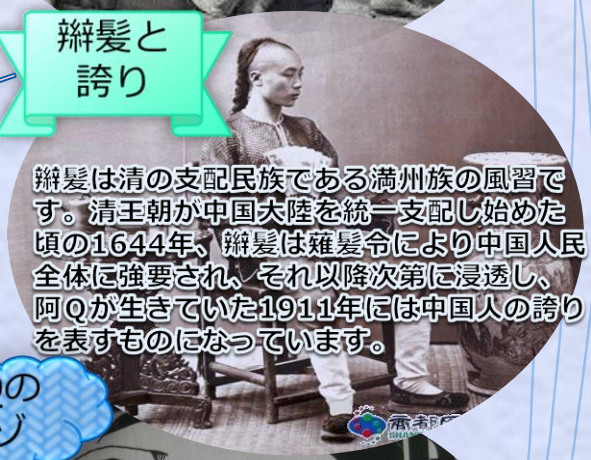
現代ならば一風変わった個性的人物と見えようが、誰も彼の本当の名も素性も知らないし、誰も興味を持たない、卑小でどうでもいい人物だった。周囲の村人から常に馬鹿にされ、暴力をふるわれているが、本人はへこたれることなく、独自の思考法でその日暮らしの生活をしている。みじめで滑稽な人物だが、同情や共感の余地など、ほとんどない人物である。村的な既成の価値観に縛られており、どこかの革命の噂を聞けば、自分も革命家になりたがるが行動はしない、どこにでもいそうな人物でもある。

「阿Q正伝」は、英雄を語り継ぐ物語でも、人間の気高い魂を讃える物語でもない。清朝末期の激動の時代、中国の片田舎の未荘という村で、無実の罪科で不当に殺された、みじめでどうでもいい、誰にも語り継がれるはずのなかった男の物語である。

革命

「阿Q正伝」は、1911年の辛亥革命によって、清王朝が滅亡する直前の中国の農村風景を描いています。日清戦争以降、日本や西欧列強によって半植民地状態になっても指導力を発揮できない 清王朝を打倒し、革命する気運が盛り上がりました。

辮髪と誇り



辮髪は清の支配民族である満州族の風習です。清王朝が中国大陸を統一支配し始めた頃の1644年、辮髪は薙髪令により中国人民全体に強要され、それ以降次第に浸透し、阿Qが生きていた1911年には中国人の誇りを表すものになっています。

阿Qのナゾ

「阿Q正伝」は、作者・魯迅による当時の中国の民衆を批判的に描いた物語だといわれています。しかし、「阿Q正伝」の成り立ちや〈阿Q〉という人物の文学的モチーフは、よく考えようとすると多くの謎を与えるのです。いったい〈阿Q〉とは誰なのでしょうか。

読書会とは？

読書は、一人だけでおこなう作業とは限りません。同じ本を読んだ人同士で感想を共有し、あるトピックに関して議論をし、知見を深めていく、そのような場を「読書会」といいます。読書の習慣のない人も読書会に参加することで読書の面白さやコツに気づいたりできます。大学の「読書会」は、教養本から専門書まで様々な本を扱います。ぜひ、在学中に読書会への参加や企画をしてみては！

単純明解な言葉があふれています。そしてそれらはすぐに古びてしまいます。古典は一読不明瞭、でもその世界は生きています。古典を読んで世界を広げましょう。—鏑木政彦先生から

ある人から「読書会は〈自己〉を持ってきて〈他者〉を持って帰るものだ」と聞いたことがあります。自分なりの「阿Q正伝」像を持ってきて、他人のものと照らし合わせ、新しい見方を発見し、終る頃にはまた新しい「阿Q正伝」像を持って帰る。この経験はきっと、素晴らしいお土産になると思います。—Cuter 趙から